

資料番号	3
------	---

令和7年3月5日
課名 農林水産局農業経営発展課
担当者 課長 出原
内線 3590

## 農林水産物の生産等概況について

### 1 要旨・目的

県内産農林水産物の生産及び販売の概況を報告する。

### 2 現状・背景

—

### 3 概要

#### (1) 調査対象

卸売市場、出荷団体等

#### (2) 調査期間

令和6年10月～令和7年1月（※一部の品目については、令和6年9月から12月）

#### (3) 調査結果

##### ア 農産物

#### (7) 普通作物の生産状況

##### 水稻

令和6年産の県内の主食用米の作付面積は20,100haで、前年産に比べ400ha減少した。

作柄については、日照時間が少なかったため、穂数は「やや少ない」となったものの、1穂当たりのもみ数が「やや多い」となったことから、全もみ数は「平年並み」となり、作況指数は「101（北部98・南部106）」となった。

令和6年産の県産米の1月までの価格は、民間在庫量が減少していることなどから、前年比155%の価格で推移しており、全国のスーパーにおける直近の店頭価格については、前年比190%で推移している。

令和7年産の生産の目安については、堅調な需要が見込まれることから、県農業再生協議会において、令和6年産の作付面積を上回る20,635haと設定している。

#### (イ) 野菜の生産状況

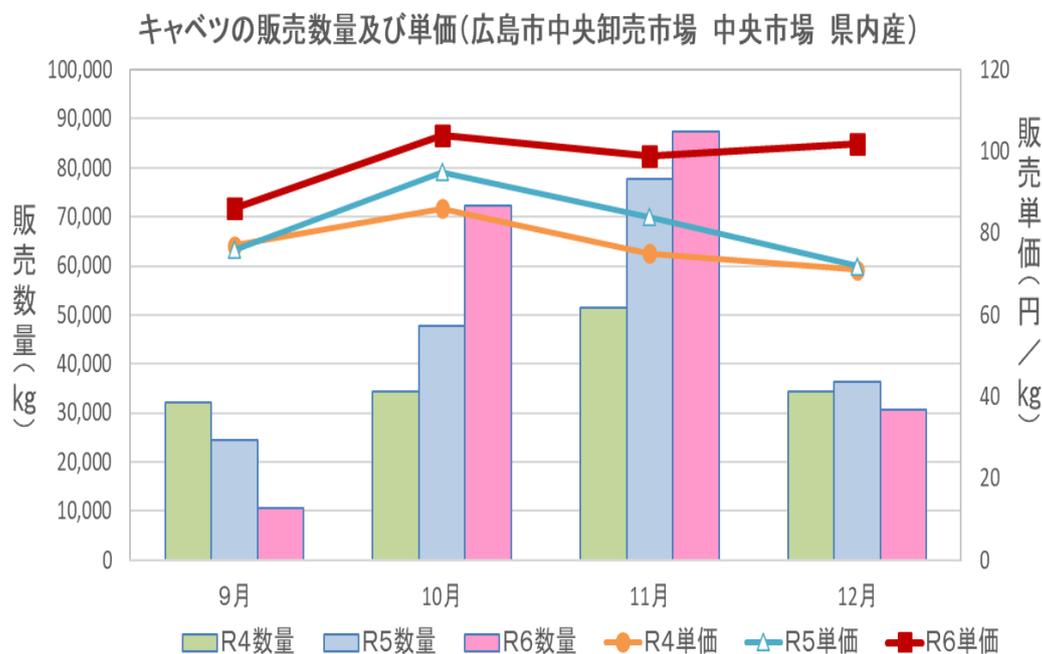
10月まで続いた高温や11月の長雨の影響で、特に露地の葉物野菜の収穫量が減った。全国的な品薄の中で、一部の品目では安定した量の確保が難しくなっている。

**a キャベツ**

庄原市や北広島町、尾道市、呉市等から出荷されている。

販売数量は、9月は猛暑の影響を受け、例年を大きく下回ったが、10、11月は過去5年間で最も数量が多かった。

単価は、9月以降、高い水準で推移している。

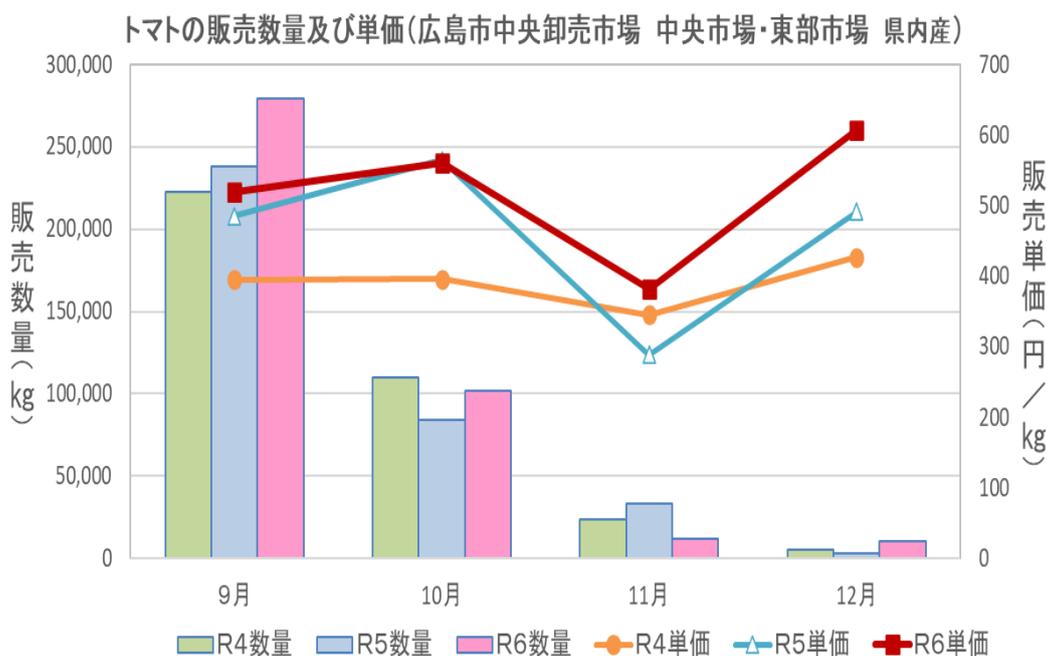


**b トマト**

11月までは神石高原町や庄原市、北広島町から、以降は呉市等の県南部から出荷されている。

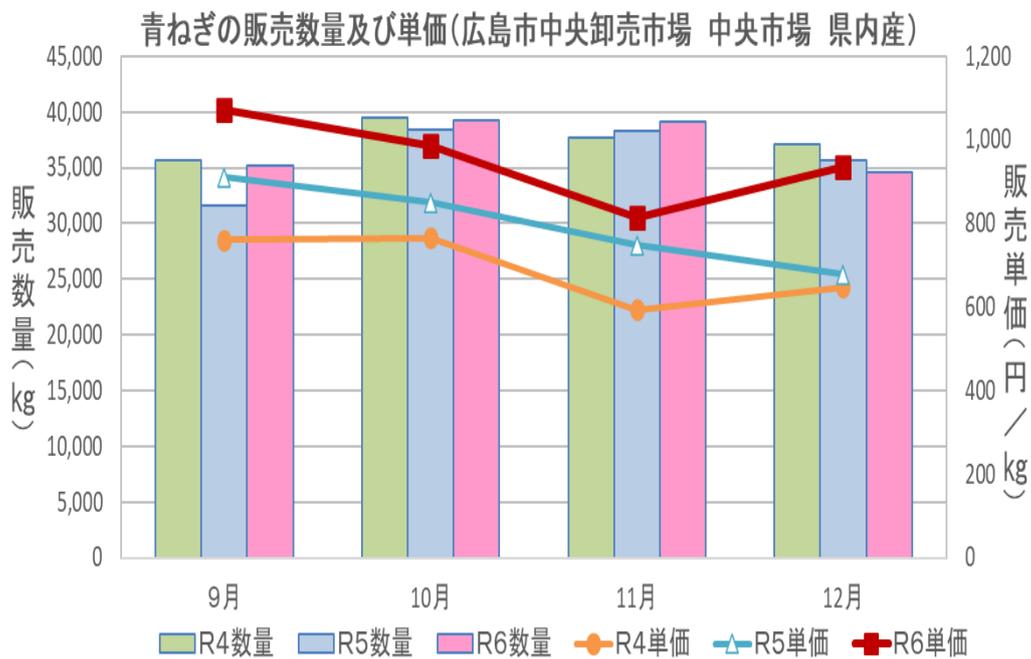
販売数量は、夏秋産地は前年よりやや増加している。

単価は全期間を通して、例年単価を上回って推移した。猛暑のため、他の果菜類の出荷が落ち込んでいる中、トマトは安定的に出荷されている。



c 青ねぎ

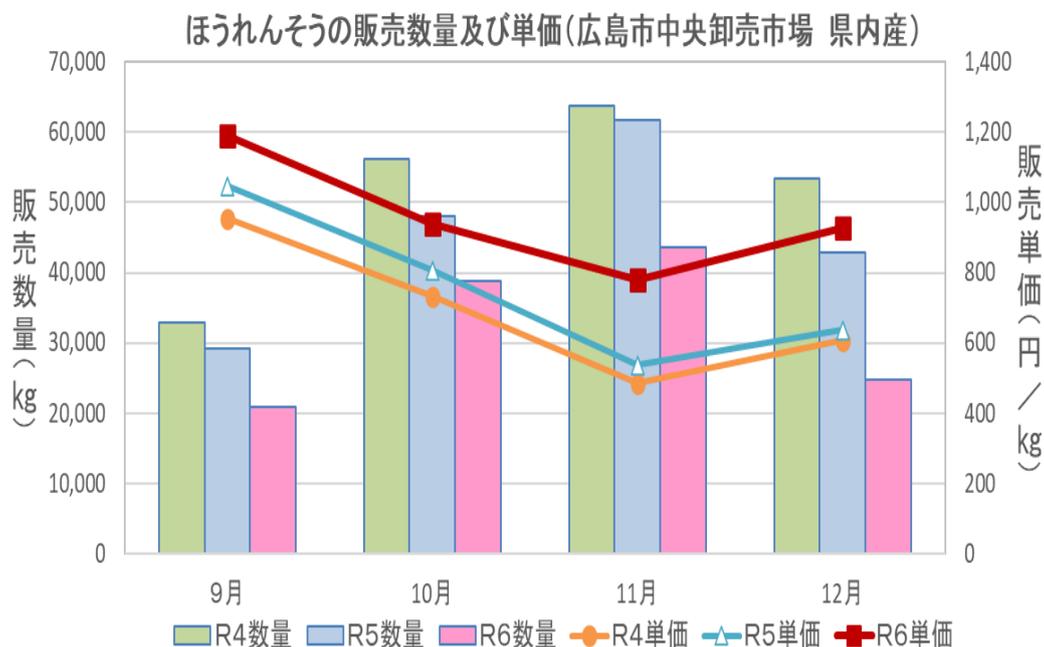
安芸高田市の養液栽培や庄原市等の土耕栽培のものが流通している。  
販売数量は例年並み、単価は全期間を通して高く推移した。



d ほうれんそう

主に庄原市や北広島町等の県北部で生産されたものが流通している。

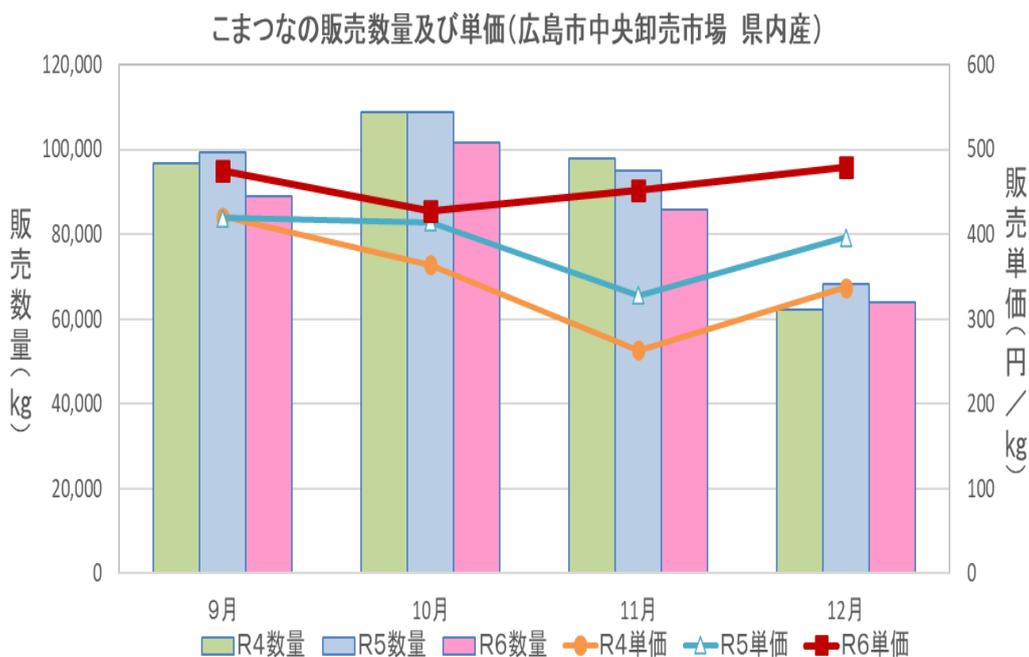
10月まで続いた高温と11月の長雨により生育不良となり、販売数量は例年より3～4割程度減で推移している。



e こまつな

広島市、安芸太田町を中心に生産されたものが入荷している。

猛暑の影響から、7月以降、販売数量は例年より減少して推移しており、単価は期間を通して高く推移した。



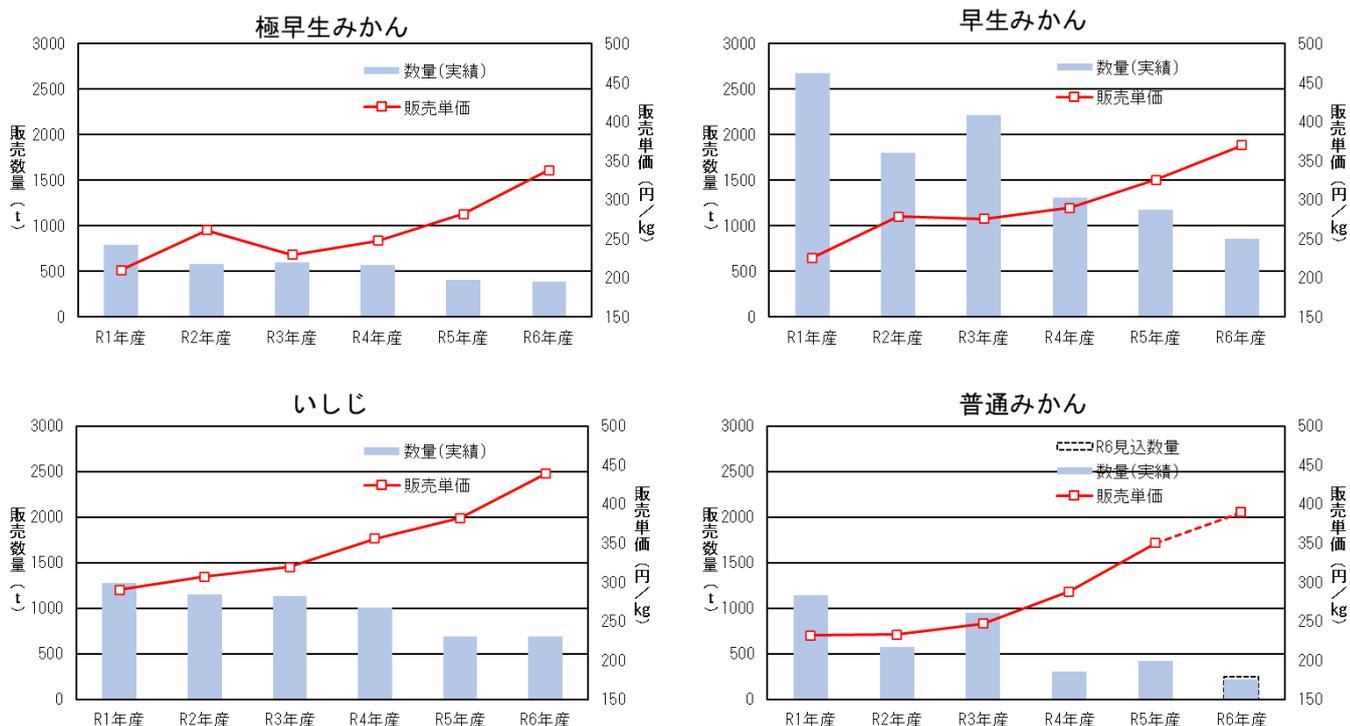
(ウ) 果樹の生産状況

a うんしゅうみかん（JA広島果実連扱い）

販売開始は平年並みで、極早生みかんが10月5日、早生みかんは11月8日、いしじ及び普通みかんは11月30日から出荷・販売された。

品質は、糖度は良好で、果実肥大は良かった。一方、本県では裏年にあたり、販売数量は、極早生みかん、早生みかんを中心に前年より下回った。

販売単価は、みかんに加え、同時期のりんご、かき等の市場入荷数量も少なく、前年より高値となった。

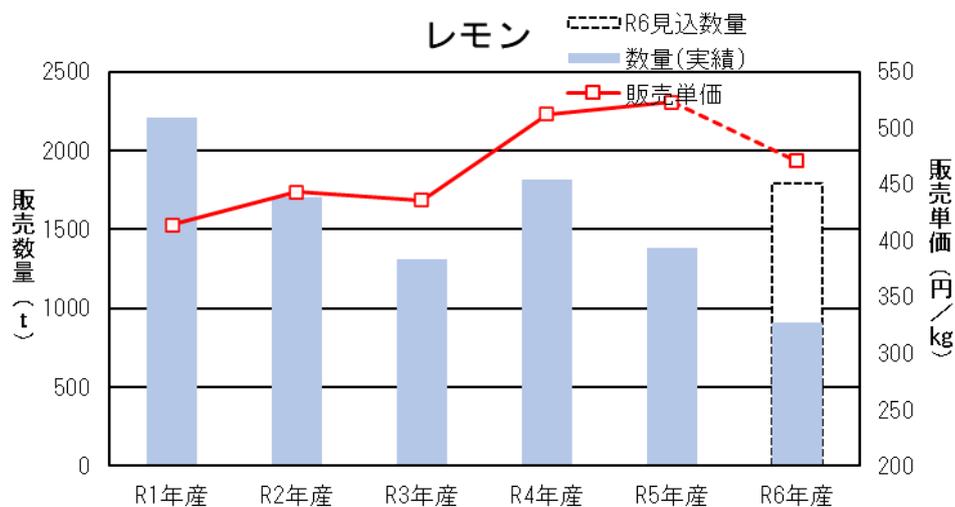


※ 数値はJA広島果実連扱いの販売数量及び販売単価。普通みかんの令和6年産については、令和7年1月までの実績（販売数量、販売単価）及び令和7年1月時点での販売数量見込み（点線）

**b レモン（JA広島果実連扱い）**

作柄もよく果実肥大も良好なことから、販売数量は、1月末時点で前年産の4割増のペースで推移しており、前年を上回るものと見込んでいる。

販売単価は、販売数量が多いことから、昨年より安値で推移している。

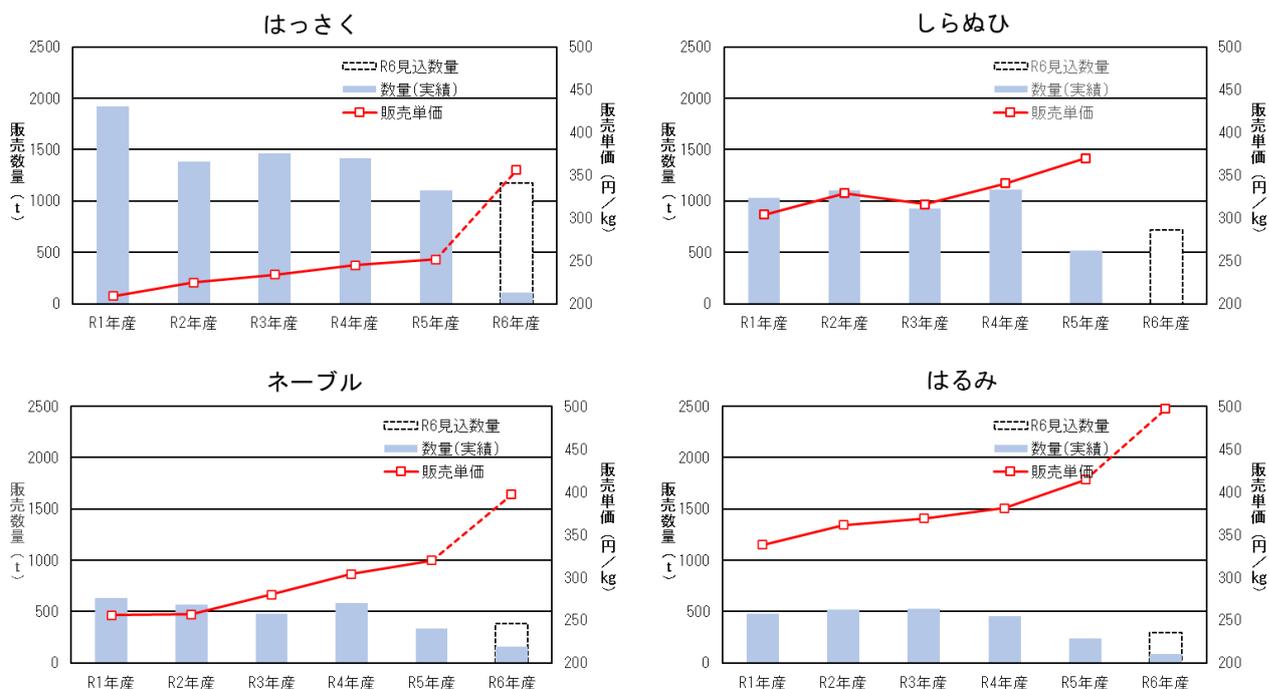


※ 数値はJA広島果実連扱いの販売数量及び販売単価。令和6年産については、令和7年1月までの実績（販売数量、販売単価）及び令和7年1月時点での販売数量見込み（点線）。

**c 中晩柑類（JA広島果実連扱い）**

中晩柑類については、概ね前年並みの着果量で、果実肥大は良好なことから販売数量は前年を上回ると見込んでいる。

全体的に食味が良く、円安の影響により輸入果実の価格が高騰していることから国内産の需要が高いため、前年産より高値傾向で推移している。



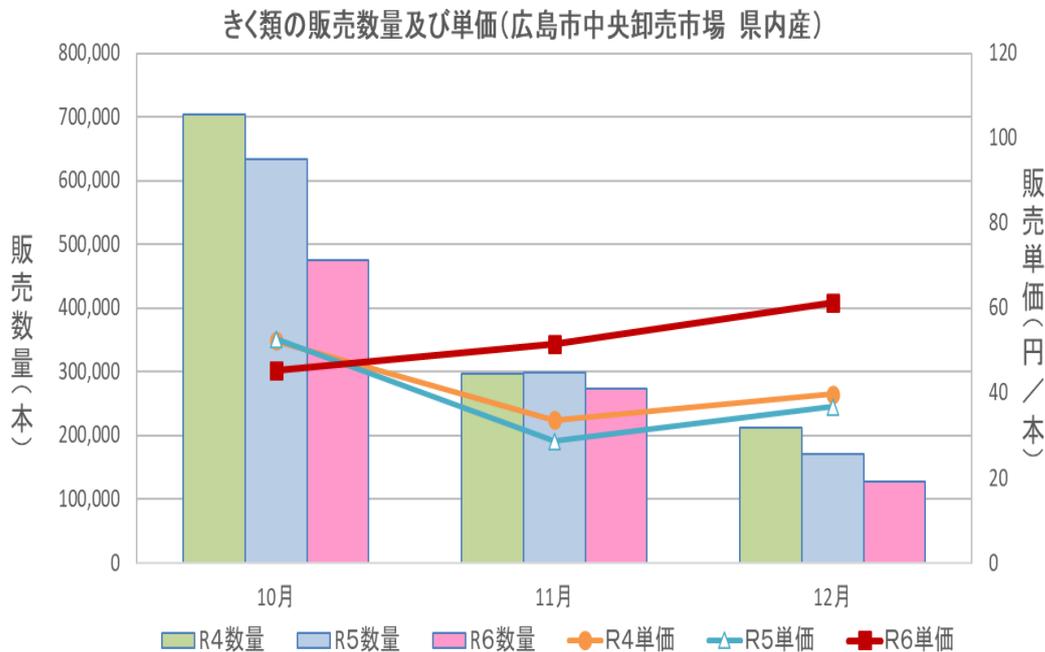
(I) 花きの生産状況

切花全体において、11月以降、平均単価より1～2割高値で推移している。

a きく

庄原市、江田島市等から出荷されている。

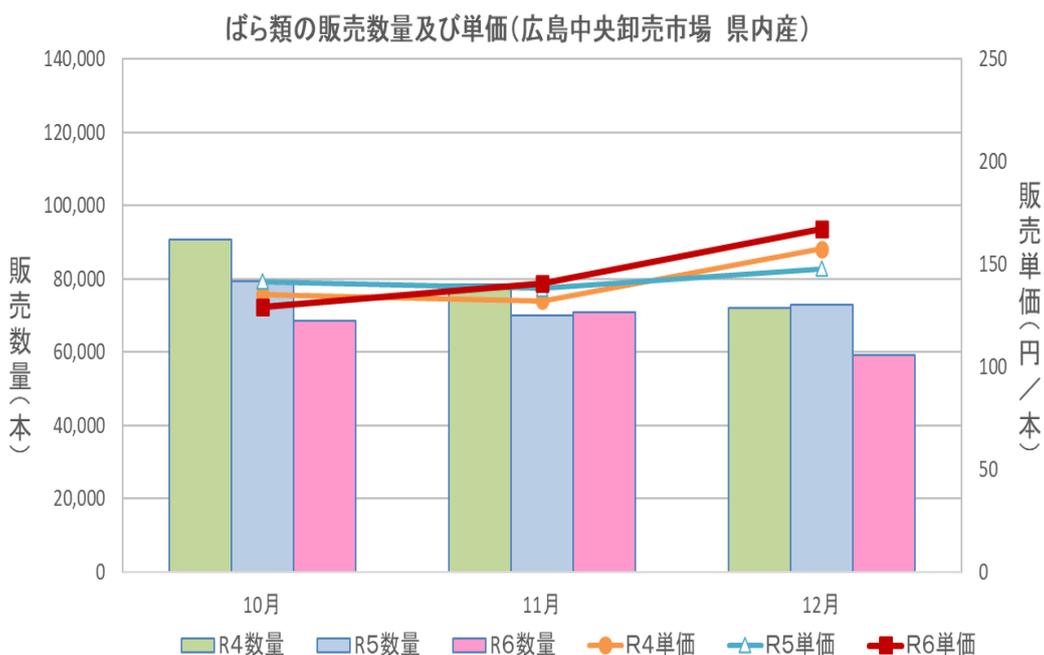
11、12月は、例年より1.5倍程度の高値で取り引きされた。



b ばら

主に廿日市市、江田島市、呉市から出荷されている。

販売数量は、夏の高温で株が弱った影響が残り、前年よりも約1割減で推移している。

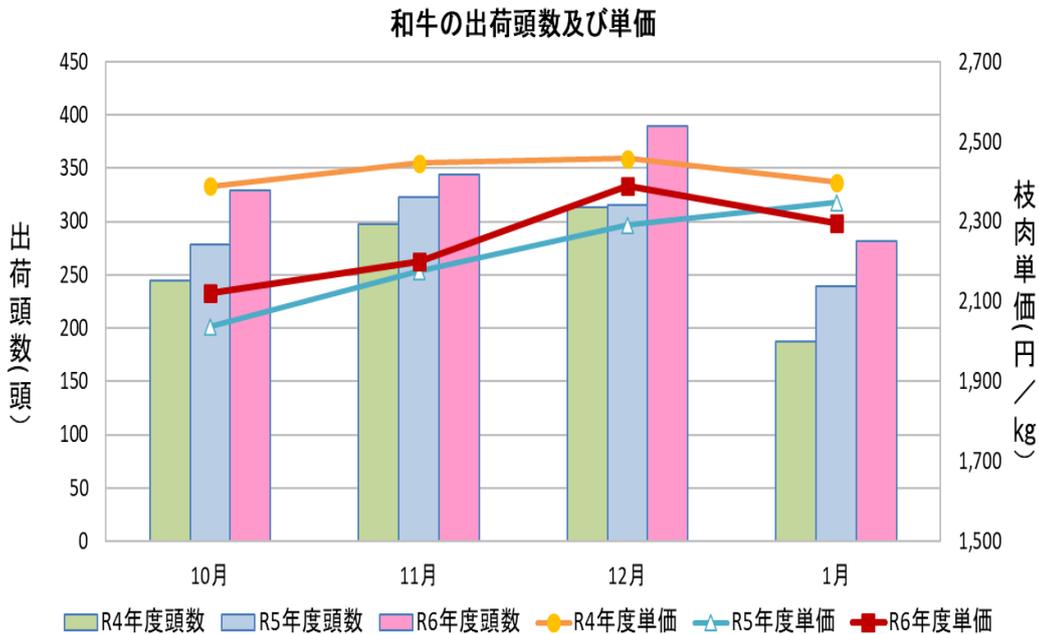


## イ 畜産物の生産状況等

### (7) 和牛

出荷頭数は、前年を上回って推移している（前年比 107～124%）。

枝肉単価は、年末の最需要期にかけて和牛肉の引き合いが堅調であったことから、12月までは前年をやや上回って推移した（前年比 98～104%）。

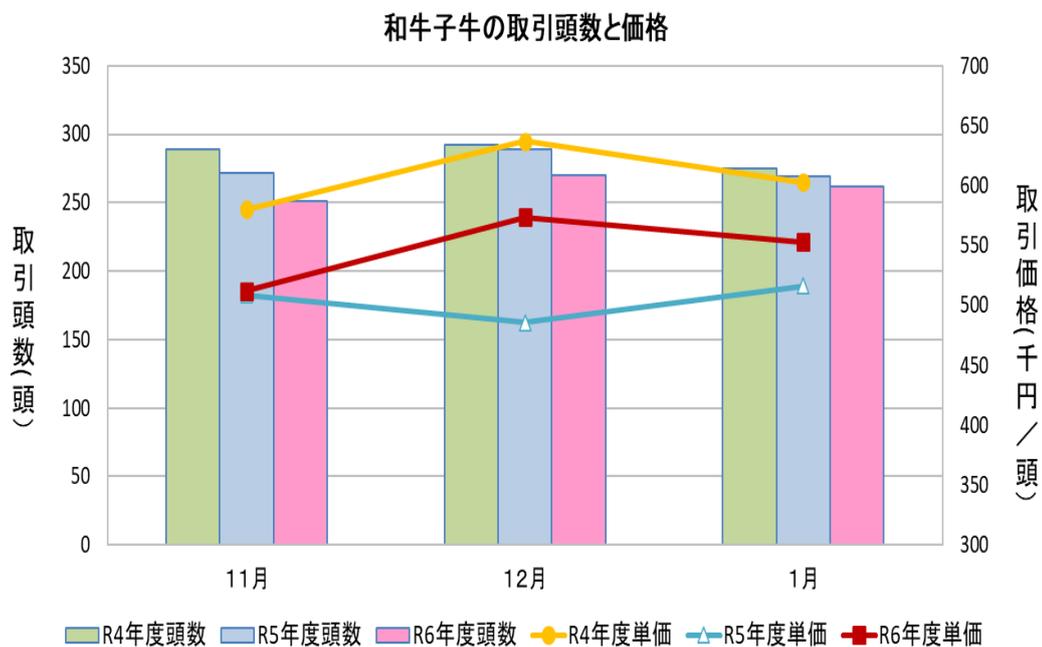


※ 「食肉流通統計」（農林水産省）。直近月は、「食肉市況速報」（（公社）日本食肉市場卸売協会）から引用。出荷頭数は全ての和牛（成牛）、枝肉単価は和牛去勢A 4 でいずれも広島市中央卸売市場食肉市場。

### (イ) 和牛子牛

出荷頭数は、前年をやや下回って推移している（前年比 92～97%）。

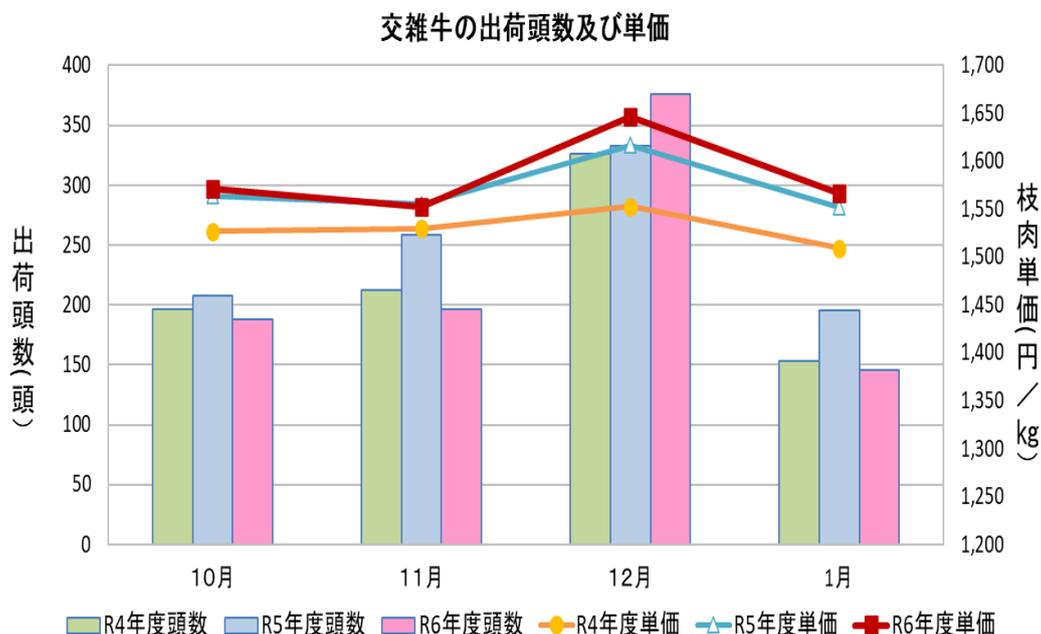
取引価格は、年末の最需要期にかけて和牛肉の引き合いが堅調に推移し、肥育経営体の収支がやや改善したことなどを受けて、前年を上回って推移している（前年比 101～118%）。



※ 「肉用子牛取引情報（独立行政法人農畜産業振興機構）」

(ウ) 交雑牛

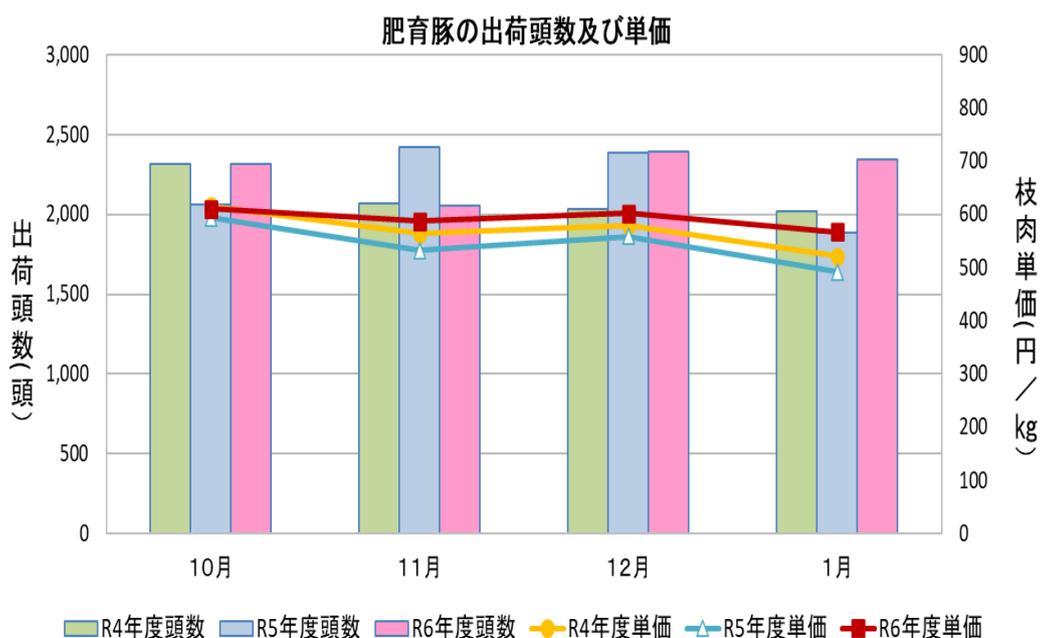
出荷頭数は、月により変動はあるが、前年を下回って推移している（前年比 75～113%）。  
枝肉単価は、前年並みに推移している（前年比 100～102%）。



※ 「食肉流通統計」（農林水産省）。直近月は、「食肉市況速報」（（公社）日本食肉市場卸売協会）から引用。  
出荷頭数は全ての交雑牛（成牛）、枝肉単価は交雑牛去勢 B3 でいずれも広島市中央卸売市場食肉市場。

(エ) 豚

出荷頭数は、月により変動はあるが、前年を上回っている（前年比 85～124%）。  
枝肉単価は、鍋物商材の需要の高まりや輸入品の代替としての引き合いが強く、前年を上回って推移している（前年比 103～115%）。

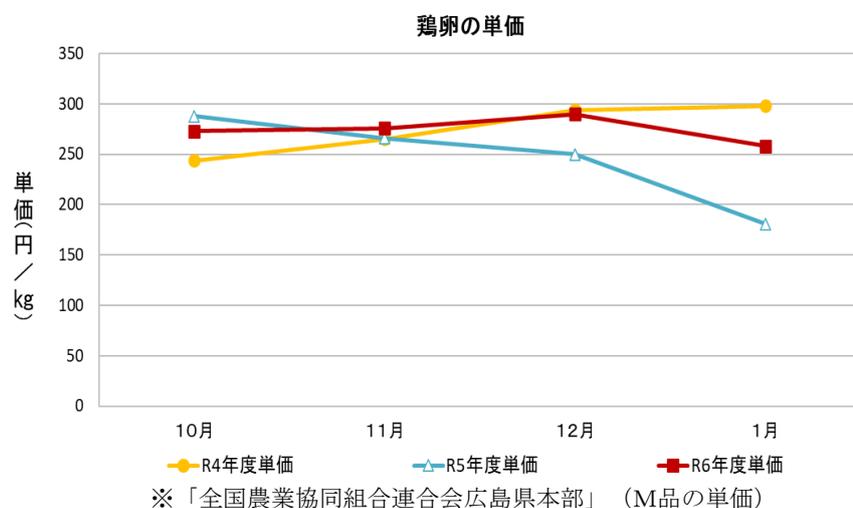


※ 「広島市中央卸売市場食肉市場」の県内産  
※ 「食肉市況速報」（（公社）日本食肉市場卸売協会）から引用。  
枝肉単価は上規格で広島市中央卸売市場食肉市場。

(オ) 鶏卵（全農ひろしま M）

鶏卵の単価は、12月は年末の需要に対して供給に不足感が出たため、高病原性鳥インフルエンザの影響で価格が上昇した令和4年度と同水準となった。

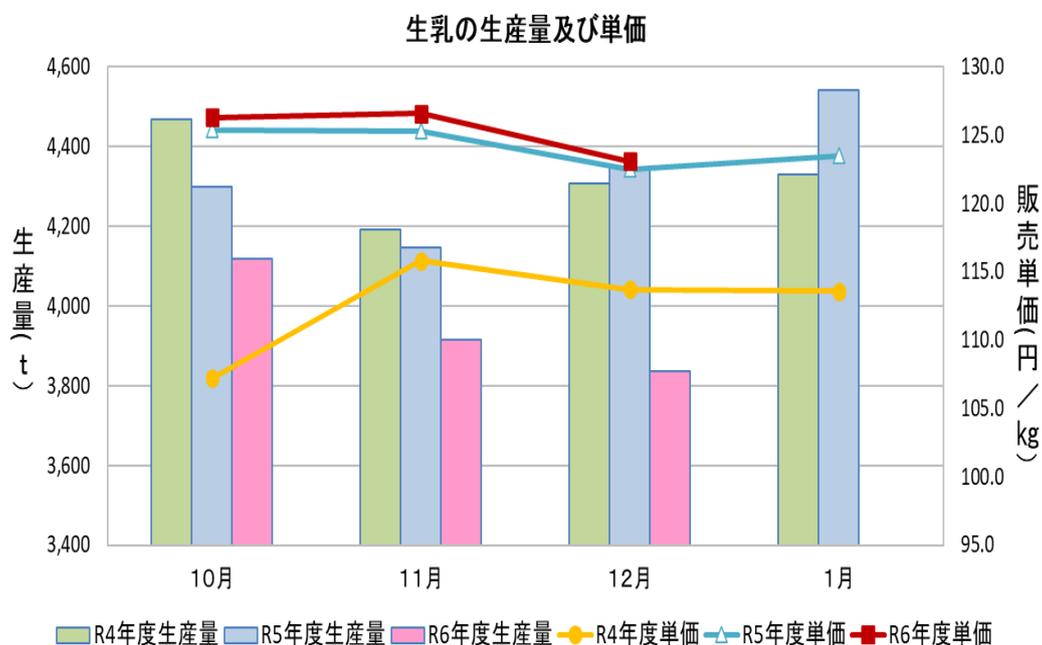
1月の平均単価は前月比90%程度であったが、年明け以降の高病原性鳥インフルエンザの急拡大を受け、1月中旬から上昇傾向で推移している。



(カ) 酪農

生乳生産量は、大規模酪農経営体の飼養頭数が減少したことを受け、前年を下回って推移している（前年比88～96%）。

生乳の販売単価は、前年並みに推移している（前年比100～101%）。



※生乳生産量は、「牛乳乳製品統計」。乳価は広島県酪農業協同組合間取りで手取り乳価。

(キ) 飼料等価格

配合飼料の価格は、穀物相場や円安等の影響で、月により増減はあるが、依然として高値が続いている。

粗飼料の価格についても、下落傾向にあるが、依然として高値の状況となっている。

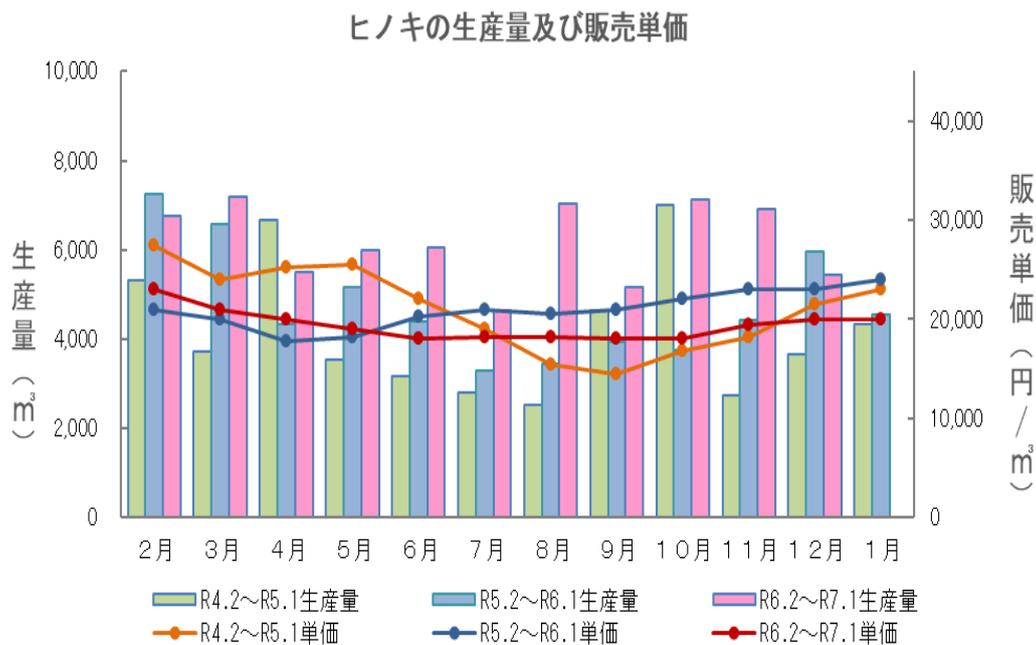
## ウ 林産物

### 木材の生産状況

ヒノキは、住宅着工数の減少等の影響により全国的には生産が抑制傾向にあるが、物流の2024年問題による輸送力の低下により、九州等の遠方から中国地区への供給が減少している影響を受け、県内及び近隣県の製材工場が、広島県からの調達を増加させており、生産量は前年を上回っている。

販売単価は、木材の安定的な需要があることから、横ばいで推移している。

引き続き、木材の価格動向等を注視するとともに、広島県森林組合連合会と連携して需要先の確保を行う。



※ 生産量：県内の森林組合におけるヒノキの生産量（林業課調べ）

販売単価：広島県森林組合連合会三次共販所におけるヒノキの販売単

## エ 水産物

### (7) 水温

1月上旬の県内海域 32 点の表層水温は 10.4～14.1℃で、平年差は-0.8～+0.9℃であった。

海 域	広島湾	安芸灘	備後灘
1月上旬の水温	12.2～13.8℃	13.7～14.1℃	10.4～12.7℃
平年差	-0.2～+0.9℃	+0.1～+0.2℃	-0.8～-0.0℃

### (イ) 漁獲状況

#### a 取扱数量

広島市中央卸売市場における県内産の主要な漁獲物 18 品目の取扱数量は、カワハギ、サワラ、サゴシの 3 品目で平年を上回った。一方、15 品目で平年を下回った。

#### b 取扱単価

県内産の取扱単価については、18 品目中 14 品目で平年を上回った。

広島市中央卸売市場における水産物の販売状況 (R 6.12)

品 目	市 場 全 体						県 内 産					
	数 量			単 価			数 量			単 価		
	t	前年比 %	平年比 %	円/kg	前年比 %	平年比 %	t	前年比 %	平年比 %	円/kg	前年比 %	平年比 %
マダイ	39.5	88	86	955	109	97	12.6	86	87	827	110	96
スズキ	11.7	80	64	650	99	115	6.8	71	58	639	105	128
カワハギ	10.9	94	39	2,988	121	272	8.3	106	135	3,590	112	187
タコ	7.3	72	39	2,472	108	141	2.4	101	47	2,797	113	153
クロダイ	4.1	93	78	445	97	107	3.9	94	82	451	97	105
コウイカ	4.6	141	77	901	110	141	3.2	211	95	1,003	101	144
アナゴ	35.2	94	78	2,235	114	125	2.9	127	80	1,423	90	94
シタビラメ	2.8	115	42	1,218	93	136	2.0	153	39	1,162	89	134
ナマコ	20.5	70	44	2,060	98	121	0.5	41	22	6,393	218	295
サヨリ	5.6	173	108	777	92	85	1.9	394	72	365	41	44
ヒラメ	6.8	60	66	2,652	146	130	0.6	17	62	2,473	428	122
サワラ	14.1	144	76	1,552	74	111	2.4	259	330	1,628	88	128
サゴシ	8.7	64	50	737	118	144	0.6	158	148	894	103	127
キジハタ	0.4	96	73	2,910	127	127	0.2	77	70	2,398	106	107
カサゴ	0.6	61	30	1,104	128	142	0.2	49	17	925	112	123
ガザミ	0.8	78	29	5,890	93	137	0.3	171	51	2,747	77	94
オコゼ	0.3	89	27	3,810	99	171	0.1	69	14	2,639	73	129
メバル	2.0	57	27	2,051	101	138	0.2	36	11	2,423	123	168

※ 平年値は平成 26 年～令和 5 年の平均

※ 県内産取扱数量 平年比 50%以上増 単価 平年比 20%以上増

※ 県内産取扱数量 平年比 50%以上減

c 煮干共販実績

煮干し（いりこ、ちりめん）については、6月中旬から出荷が始まっている。

販売数量は平年並みだったものの、単価が高かったことから、共販額は平年比 126% の約 23 億円（1月末時点累計）となっている。

広島県煮干共販出荷実績（1月末現在累計）

区 分	数量（t）	金額（千円）	平均単価（円/kg）
令和6年度 （平年比）	2,159 （97%）	2,308,120 （126%）	1,069 （130%）
平 年	2,227	1,828,809	821

※ 平年値は令和元年～令和5年の平均（1月末時点累計）

(ウ) 養殖状況

a かき養殖

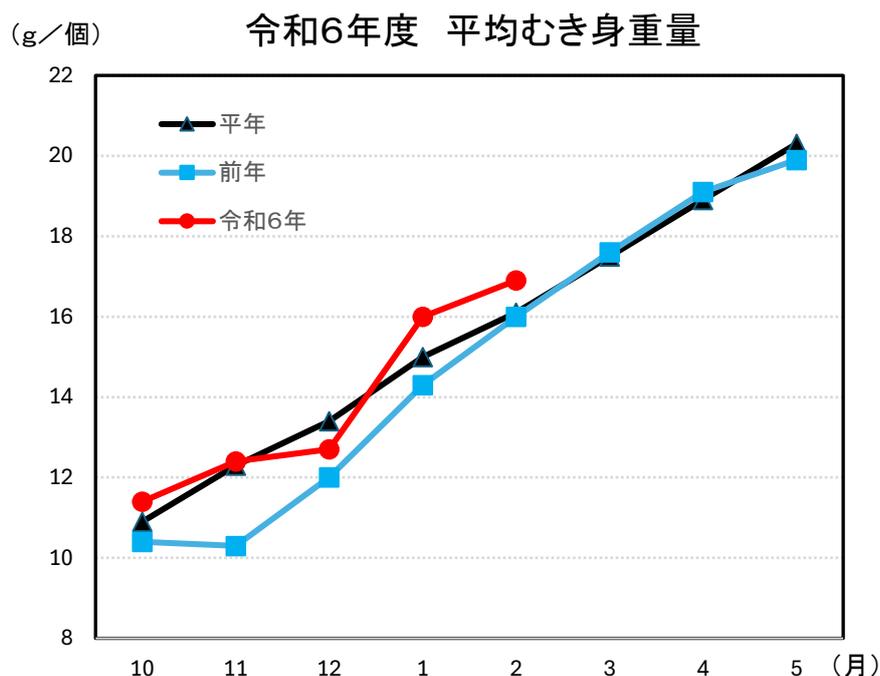
むき身の出荷については、近年の成育の遅れや、かき殻排出抑制の点から、例年より3週間遅れの10月21日から始まった。

夏場の高水温及び秋口の水温の下がりが遅かったことから、年内はへい死が多かったものの、年末の冷え込み以降、身入りは平年を上回っており、かき1個当たりの重量は平年比 105% の 16.9 g、平均単価は平年比 135% の 985 円/kgで推移している。

広島県かき成育状況調査結果（2月調査）

区 分	平均むき身重量（g/個）	平均単価（円/kg）
令和6年度 （平年比）	16.9 （105%）	985 （135%）
平 年	16.1	730

※ 平年値は平成26年～令和5年の平均（2月調査）



## b のり養殖

今期は、水温が高く採苗に若干遅れが出たものの、1月中旬から出荷が始まっており、共販数量は平年比109%で推移している。

全国的な生産不調による品不足が重なり、平均単価は平年比237%、平均単価は218%と大幅に増加している。

広島県乾のり共販出荷実績（2月12日現在累計）

区 分	数量（千枚）	金額（千円）	平均単価（円/枚）
令和6年度 （平年比）	30,256 （109%）	727,208 （237%）	24.03 （218%）
平 年	27,850	306,491	11.01

※ 平年値は平成26年～令和5年の平均（2月12日基準）